

南阿蘇村行財政改革計画概要

子や孫の世代へ、続く村を託すための「決断」と「創造」

～南阿蘇村行財政改革計画（2026-2030）～

■ 未来への責任を果たす羅針盤

南阿蘇村は、熊本地震からの復興を通じて「強靱な地域づくり」の精神を培ってきました。しかし、人口減少と財政逼迫という回避しがたい課題に直面し、これまでの現状維持の延長線上では、ふるさとを次世代へ引き継ぐことは困難です。本計画は、行政改革推進委員会の答申を重く受け止め、「事務」に迫られる組織から、生み出した余力を「村の未来づくり」に注力する組織へと根本から変革し、未来への責任を果たすための指針です。

■ 財政の現状：自由に使えるお金はわずか「4.6%」

村の財政の弾力性を示す「経常収支比率」は令和5年度で95.4%に達しています。これは、標準的な収入のうち、人件費、借金返済（公債費）、医療・介護費（扶助費）等の義務的経費を除いた「自由に使える裁量的財源」が、年間約2億7千万円（4.6%）程度しかないことを意味します。住民一人あたりの借金返済額は34万8千円と重く、このままでは新しい施策を打つ余力がありません。

■ 人件費の最適化と「再投資」の徹底

民間委託を推進し、中長期的な人件費を圧縮します。ここで捻出した財源は、単なるコストカットで終わらせず、その全額を「子育て・教育・移動手段」の維持・充実へ「付け替える」運用を徹底します。これにより、行政規模は縮小しても住民サービスの質を向上させる「資源の再配分」を村民に明示し、理解と共感を得るものとします。

180超の施設を「負債」から「資産」へ

～戦略的ゾーニングと持続可能なサービスの創造～

■ 戦略的ゾーニング：既存施設を役割で使いこなす

新たなハコモノ建設は行わず、エリアごとに既存施設の役割（文化・歴史、スポーツ・交流等）を明確に分担させる「戦略的ゾーニング」を推進します。村全体をひとつのキャンパスとして機能させ、どこに住んでいても質の高いサービスに繋がれる体制を構築します。利用価値の低下した施設は「用途廃止」し、維持費を要する「負債」から、税金や雇用を生む「資産」へと戦略的に転換します。

■ 持続可能なサービスに向けた「再編」

・**保育所・教育環境の再構築**：園児減少、施設の老朽化、保育士不足という課題に対し、「あり方検討委員会」で抜本的に協議します。体制見直しで生み出される財源と人材

を、病児保育といった保護者のニーズが高いサービスに充て、質の高い環境を再構築します。

・**安心を実感できる子育て環境の実現と支援の最適化**： 村の未来を担う子どもたちの支援は、本計画の最重要事項です。出産祝い金、給食費補助、英語検定費用の公費負担などの多角的な支援策をライフステージ別に体系化し、デジタルツール等を用いた「見える化」を徹底し、必要な支援が確実に届く体制を整えます。

・**子どもの居場所確保と多世代交流**： 放課後や長期休暇中の居場所確保に向けて、教育・福祉部門が連携し、公民館や学校など身近な拠点を活用した多世代交流の場を創出します。既存施設や遊休スペースを有効活用し、地域住民による自然な見守りの中で、子どもたちの豊かな成長を促す環境を強化します。

・**南阿蘇の自然を活かした遊び場の整備**： 子育て世帯のニーズに応える遊具付き児童公園の整備は、公共用地や施設跡地の活用を基本とし、財政負担の抑制と維持管理の容易さを最優先します。都会的な遊具の安易な設置を避け、南阿蘇の自然素材や地形を活かした設計を採用し、デジタル機器依存に歯止めをかけ、屋外での自発的な活動や他者との関わりを促す空間を目指します。あわせて、村内の水源や清流を学びのフィールドとして最大限に活用し、地域の自治会等と協働で維持管理を行うことで、行政任せにしない持続可能な交流インフラとしての価値を高めます。

・**駅舎を地域の「ハブ」へ**： 貴重な資産である駅舎を戦略的拠点（ハブ）と再定義します。公募型プロポーザルによる民間活用を推進し、賑わいを生む事業を誘致するとともに、日常的な維持管理を事業者が担う仕組みの構築を目指します。財政負担を抑えながら活気ある空間を創出し、案内インフラの整備も進めます。

・**パークゴルフ場の最適配置**： 全3施設が赤字という現状を直視し、最も効率的な1箇所へ機能を統合する方針です。民間活力を導入し、コスト抑制と満足度向上を両立させます。

・**上下水道料金の段階的改定**： 安全な水を将来にわたり守るため、独立採算を目指します。現在は水道を使わない世帯の税金で維持費を穴埋めしている不公平な状態であり、一般会計への依存を脱し、公平な仕組みを構築するための料金改定を検討します。

・**村設置型浄化槽の譲渡**： 自費管理の住民と村負担の「村設置型」利用者の間にある不公平を解消し、将来的な財政リスクを軽減するため、利用者への譲渡を検討します。丁寧な合意形成を図りながら最適な解決策を模索します。

地域資源を「誇り」と「財源」に変える

～村外からの共感獲得と、稼ぐための観光・農業・流通戦略～

■ 自立型財源の創出：南阿蘇の価値を「村の力」に変える

・**ふるさと納税「20億円」への挑戦**： 野焼き、水源保全、震災遺構、歴史的石積み群などの営みを「生きた物語（SDGs）」として戦略的に発信することにより、村の価値に対する「共感」を、重点施策に活用できる「村外からの貴重な財源」へと繋げ、寄付額20億円の目標達成を目指します。

・企業版ふるさと納税と先進的パートナーシップ：企業が社会や環境に配慮した取組を重視する流れを踏まえ、本村の課題を「企業と一緒に解決する取組」として提案します。自然環境の保全や防災教育などをテーマに、民間資金を戦略的に活用し、持続可能な地域づくりと企業の社会的評価の向上を両立させます。

■ 稼ぐための観光・移動戦略

・戦略的な企業・イベント誘致と体験型観光：村固有の地形や豊かな自然資本を最大限に活用し、環境と調和した「体験型観光」を戦略的に推進します。これら自然の中での体験価値を核として、高品質な滞在環境を提供する宿泊施設の誘致に注力することにより、従来の「通過型」から「滞在型」へと観光構造を根本から転換させ、地域経済に確かな資金が循環する仕組みを確立します。これは単なる観光振興に留まらず、若年層の雇用創出と定住促進へと繋げるための重要な施策です。

・回遊を促す二次交通の最適化：観光客向けの移動手段については運賃収入に固執せず、徹底的な利便性を優先します。行政の役割を「観光客が村内を自在に動けるインフラを整えること」に置き、滞在時間を最大化させることで、地域全体の消費額を増やす「稼げるインフラ」を実現します。

■ 基幹産業の再構築：農業を「支援の対象」から「動かす力」へ

・「稼げる農業」への転換と戦略的支援：従来の「生産維持のための直接支援」から、収益力を高めるための「戦略的支援」へと軸足を移します。収穫後の品質管理を高度化する共同利用基盤の整備や、市場ニーズを捉えたブランド化を推進。具体的には、有機農産物等のビタミン・ミネラル含有量を数値化するなど「健康データ」という科学的根拠を提示・発信することで、南阿蘇ブランドの付加価値を最大化させ、生産者の所得向上を図ります。

・健やかな育ちを支える給食との連携：学校給食を単なる食事の提供ではなく、地域の恵みを次世代に繋ぐ場と位置づけます。地元の有機農産物や赤牛を積極的に活用することで、子どもたちがその高い栄養価値を享受し、豊かな食習慣を育むとともに、地域農業への理解と愛着を深める環境を整えます。

・獣害対策の産業化：対策強化とともに捕獲個体を有効活用し、被害対策という「負の要因」を、新たな雇用と所得を生む「地域の資源」へと転換する循環型モデルを推進します。

■ 住民の暮らしを守り、未来へ繋ぐ基盤づくり

・買い物弱者支援と移動の自由：デジタル技術と既存の配送網を組み合わせた「南阿蘇型流通モデル」を構築し、生活必需品を身近に入手できる環境を確保します。また、予約型乗合タクシーの最適化やICTを活用した「共助型移動支援」、福祉車両の有効活用などを組み合わせ、免許返納後も通院や買い物を安心して行える生活動線を維持し、孤立のない地域社会を実現します。

・移住・定住の融合支援：単なる人口増を目指すのではなく、転入者が南阿蘇の価値や文化を適切に理解し、コミュニティの担い手としてスムーズに融合できるよう、行政が

「情報の到達」に責任を持つ仕組みを構築します。これにより、新旧住民が共に村を創るパートナーとして共生できる、持続可能な定住環境を整えます。

20年後の南阿蘇を、皆様とともに

～行政内部の筋肉質化と、現場が主役の組織へ～

■ 業務プロセス改革 (DX)

事務から「村の未来づくり」へ DXの本質は単なる省力化ではなく、職員を事務作業の呪縛から解放し、対話や課題解決といった「現場の仕事」に注力させることにあります。長期保存書類の電子化による執務スペースの確保や、衛星回線の整備により、災害時でも止まらない強靱な体制を構築します。

■ 20年後の視点に立つ「即応型体制」

20年後の南阿蘇を支えるのは現在の若手職員や子どもたちの世代です。本計画では、次世代が描く「20年後に残したい村の姿」を計画の根拠・核に据えます。また、現場の職員が状況を即座に捉え、年度末を待たずに判断・実行できる「即応型 (OODA ループ)」の体制を整え、組織の機動性を高めます。

■ 皆様と共に歩む、改革の先にある風景

本計画の最終的な目的は、村民の皆様の幸福 (ウェルビーイング) の最大化です。改革で生み出した余力は、子どもたちの遊び場、安心な移動手段、そして温かな地域ネットワークへと、確かなかたちで還元していきます。20年後、南阿蘇村に育った子どもたちが、心から「この村に生まれて良かった。これからも住み続けたい。」と思える未来を、今、一丸となって築きましょう。南阿蘇の豊かな明日を、皆様とともに築き上げていきましょう。